

Cattleya maxima

カトレア マキシマ

カトレア・マキシマはエクアドル南部からペルー北部にかけ分布するカトレアです。マキシマとは「大きな」といった意味合いで、なぜこの花にこのような名前が付けられたか不思議ですが、1831年に発見された当時としてはカトレアの仲間の中で一番大きな花だったようです。現地ではちょうどクリスマスの頃に咲くことから「Flor de Navidad」=「クリスマスフラワー」と呼んでいます。

最初に見つけたマキシマはいわゆる「山のタイプ」で、株は比較的小振りで3~5輪程度の花を咲かせるものでした。「山のタイプ」は標高1000~2000m程度のところに自生し今日でもわずかに見ることができます。

イゲロンという樹にチランジアなどと共に着生しています。(チランジアが多いので霧の多い地域と推測されます) 1864年に新たに背の高いマキシマが発見されヨーロッパへ持ち込まれました。

これが今日「海岸タイプ」と呼ばれるものでエクアドルの海岸沿いの森にあったものです。これらは草丈が60cm以上にもなり、12~21輪もの花を付けたと記録にあります。野生のカトレアの生態は今でも未知の部分が多く、あくまでも推測の域をでないことも多いのですが、なぜ山と海岸に分かれそして株の大きさも全く違ったものが存在するのか不思議ではありません。

マキシマはあまり交配に使われず、またその原種として

の価値もあまり重視されてこなかった、大輪の原種としては珍しいカトレアです。一躍脚光を浴びはじめたのは1990年代はじめにセルレアが見つかったからです。マキシマの最初の発見から150年以上

たって初めてセルレアが見つかる

るとは、それもほんの偶然に!! その噂は当時日本にも流れ、一時は数百万で売りにでているといった話もあったほどです。実際にはエクアドル在住のアンドレッタ神父(南米ではパドレ・アンドレッタと呼ばれ蘭の保護研究者として広く知られる人物)によって大切に栽培され、少しずつ株分けで繁殖されたものが世界に広がっていったのです。その後セルレアは最初に偶然発見された農園の園主の名前をとり「ヘクター」と名付けられました。とはいえセルレアはまだまだ世界でも10株あるかどうか。また他

の大輪系原種カトレアと異なりアルバやセミアルバといった色彩もあまりない不思議なカトレアなのです。

今回はこのカトレア・マキシマ・セルレア「ヘクター」のメリクロンをはじめ、珍しいマキシマの交配も限定で販売します。ぜひこの独特の雰囲気を持つカトレア・マキシマを皆さんで育ててみてください。

海岸タイプの自生する近く



セルレアの発見された農園



セルレア「ヘクター」



園主とセルレアの壁画



山のタイプの自生地

